

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！



2021注目の新提案ハイライト Vol.1

イグスの現状および今後の取り組み igus GmbH フランク・ブラーゼ氏が解説

2021イグスの現状 今後の取り組み

イグスは、先ごろドイツ(ケルン)と日本(東京)でオンライン中継によるプレスカンファレンスを開催し、同社の現状ならびに今後の取り組みとともに、2021年の新提案・新製品を報道陣に紹介した。

はじめに、ケルン本社からイグス(igus® GmbH) 代表取締役 & アントレプレナーのフランク・ブラーゼ氏が同社の現状ならびに今後の取り組みを報告した。以下は、フランク・ブラーゼ氏のコメントを紹介する。



「こんにちは！イグスのプレスカンファレンスに日本からご参加いただき有難うございます。初めてご説明するのはわれわれが昨年から学び得たこと、今年に入ってからの経験、そして現在の状況についてです。

昨年はCOVID-19の影響で売上高が4.7%減少しました。多くのお客様が損害を受けたことを考えれば、これはそれほど悪い数字ではなかつと実感しています。

機械産業は一部で甚大な被害を受けました。当社が売上高減少を抑制できたのには理由があります。まずなにより、リモートの販売を学んだことです。「イグス モーション・プラスチックショー」を1年以上前に設置し、これまで55,000人が訪れ、なんと16,000のガイドツアーを行いました。16,000人のお客様に見どころをお伝えしてお客様が求める技術を提示したり、新提案を提示したりしました。このバーチャル展示会は非常に好評だったため、世界28カ国でも同様に設置しました。ただ、このリモート販売は取り組みのごく一部

です。われわれは世界各地で在庫を増やし、多くの製品を迅速にお届けできるようにしました。アジアではネットワーク全体で68,000点の製品を在庫しています。世界各地の地域で協力し合っているのです。こうしてオンラインの売上高は急増しました。

今年1~5月期で62%も伸びており、それにより損失がカバーされています。こうした流れを受けて当社は今、新たな発展の只中にいます。生産能力50%アップを目指して強化しており、新たに広さ24,000㎡の新工場を建設しています。完成するまでの間は当社周辺にある施設を賃借したり、仮の建物で対応しています。射出成形機は新たに330台を発注しました。すでに100以上が稼働しています。また、昨年末には在庫を増やし、急な需要にもすぐに対応できるようにしました。

人事面でも取り組んでおり、ドイツの工場250人以上を雇用、さらに220人を雇用する計画です。

研修制度も改善させていくつもりです」。

イグスが取り組む サステナビリティ

「樹脂と環境とサステナビリティが共存可能な方法とは何でしょうか。われわれは会社の目標、今後に向けた目標を新たに立てました。これまでの目標の「モーション・プラスチックによる可動部の改善」に加え、「カーボンニュートラルと樹脂廃棄物ゼロ」を掲げました。非常に困難な目標で到達できない可能性もありますが、大きな進歩を遂げるためには高い目標設定が必要です。膨大な労力とコストがかかりますが目指していきます。

「われわれの大小さまざまな取り組みの中から新たな3つの試みをご紹介します。

使用済み製品を リサイクルする

1つ目は使用済み製品のリサイクル

です。

当社は循環型経済のためスタートアップのMura Technology社に投資を行いました。2019年に始めたこの投資は数カ月前に総計で500万ユーロ(約6億5千7百万円)に達しました。ダウ・ケミカル社も、先日Mura Technology社と提携し、投資を決めたのを嬉しく思います。米国の大手エンジニアリング会社のKBR社もMura社と提携しました。Mura社は2025年までに、樹脂廃棄物の処理能力を100万トンに増強する予定です。未分別樹脂廃棄物を、ナフサなどのオイルやその他の化学物質還元できるとしています。最初のプラントを現在イングランドで建設中です。こうした技術の誕生に関わられて光栄に思います。大規模に展開されていくことを願います」。

職業訓練制度を通して 持続可能な社会に貢献

「グローバルな取り組みから一転して、2つ目は周囲での小さな取り組みです。

ドイツには職業訓練制度があり、若い訓練生たちが実務を積みます。イグスはこうした訓練生が学ぶ最善の方法を検討し、考え出しました。それは会社経営です。訓練生たちに経営する機会を与えることにしました。訓練生が考えた取り扱い製品と事業とは、イグスで出た電気・電子機器の廃棄物を集め、それらを整備し、イグス社員とその家族にオンラインで販売するというものです。整備したのは中古パソコン、モニター、キーボード、プロジェクター、コピー機などです。オンライン販売は、先月開始しましたが、ほぼ完売となっています。

私はイグスが年間5トンもの電気・電子機器の廃棄物を出していることを知りませんでした。そこで何百台ものパソコンを処分せずに収集しました。パソコンは整備すれば機能します。また販売する機器の中でも特にパソコ



ンは役に立ちます。最近、自宅学習、リモート教育、オンライン授業が行われますが、親の中には子供たちにパソコンを買う余裕のない人も多くいるからです。訓練生たちは良い事業を起こしてくれました」。

製品から排出される CO2量の削減を推進

「3つ目は、CO2排出量の測定と検査です。当社の建物や設備、生産過程、そして製品から排出されるCO2量の削減に取り組んでいます。目標は、2025年までに建物や生産活動での気候中立の達成です。例をお見せしましょう。これは敷地内の駐車場の計画図で、われわれは緑の植栽を施したファサードを造る予定です。これがCO2を吸収してくれます。イグスの敷地の中心に緑の“肺”を作るものです。

また、屋上にはソーラーパネルやガーデンを設けて、当社またはお客様のイベントなどへの活用も検討しています。

今日、お話ししたのは当社の取り組みのごく一部です。

われわれは樹脂を貴重な資源と捉えています。

近年オランダで始動したプロジェクト団体「プレシヤス・プラスチック」があります。こうした循環型の賢い取り組みにわれわれは賛同します。

もちろん、他にも問題はあります。摩耗による微粒子や石化燃料への依存などです。

そうした問題を受け止め、サプライヤーやわれわれは今後も取り組んでいきます。

本日はありがとうございました」。